

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	岩本 曉美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師にとって最低限必要な骨折総論を学ぶ。
到達目標	柔道整復師国家試験に対応できるように骨折について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	人体に加わる力 損傷時に加わる力	急性・亜急性について理解し、説明ができる。	
2	骨の形態と機能	骨の構造について説明ができる。	
3	骨損傷の概説 ・骨折の分類 1	骨の性状による分類、骨損傷の程度による分類の説明ができる。	
4	骨損傷の分類 2	骨折線の方向による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、骨折の数による分類について説明ができる。	
5	骨損傷の概説 ・分類 3	外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類、骨折の部位による分類、受傷後の経過について説明ができる。	
6	骨折の症状 1	骨折の一般外傷症状と固有症状の違いについて説明ができる。	
7	骨折の症状 2	骨折の全身症状について説明ができる。	
8	骨折の合併症 1	併発症・続発症・後遺症の違いについて説明ができる。	
9	骨折の合併症 2	骨折の併発症、続発症について説明ができる。	
10	骨折の合併症 3	骨折の後遺症について説明ができる。	
11	小児骨折	小児骨折の特徴について説明できる。	
12	高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できる。	
13	骨折の癒合日数 骨折の治癒経過	グルトの骨癒合日数について説明できる。	
14	骨折予後・治癒に影響を与える因子	骨折治癒の好適・不適条件を理解し、説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復師の業務範囲を理解し、治療法を実践できるようにする。患者の指導管理・外傷予防を身につける。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	学んだあと、プリントで復習する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布プリントをしっかりと復習すること

成績評価	100%筆記試験
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	解剖学用語	方向と位置を表す用語・人体各部の名称を理解し説明できる。	
2	骨格系総論	人体の区分線を理解し説明できる。	
3	柔道整復師の沿革	沿革と業務範囲の理解し説明できる。	
4	骨折の整復法 1	徒手整復時の配慮・非観血的整復の要点を理解し説明できる。	
5	骨折の整復法 2	整復の一般的原則、屈曲整復・牽引勅圧法の理解し説明できる。	
6	脱臼の整復法 1	脱臼の整復法・非観血整復の要点を理解し説明できる。	
7	脱臼の整復法 2	整復の一般的原則、整復法の理解し説明できる。	
8	軟部組織損傷の 初期処置	RICE処置法の理解し説明できる。	
9	固定法	固定施行時の注意、固定後の配慮を理解し説明できる。	
10	手技療法	手技療法の基本型を理解し説明できる。	
11	手技療法の実際	手技療法を実際試して理解し説明できる。	
12	運動療法	運動療法の基本型の理解	
13	指導管理	患者の環境・スポーツ活動に対する指導管理が理解し説明できる。	
14	外傷予防 1	身体の基礎的状態の評価を理解し説明できる。	
15	外傷予防 2	特異的予防について理解し説明できる。	

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1		前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で施術を担当する。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。	
2	関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。	
3	関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。	
4	関節構成組織の損傷 1	靱帯損傷について理解し、説明することができるようになる。	
5	関節構成組織の損傷 2	関節損傷の分類、靱帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。	
6	関節構成組織の損傷 3	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。	
7	脱臼 1	脱臼の定義、各種分類、症状を理解し説明することができるようになる。	
8	脱臼 2	脱臼の合併症、整復障害、経過と予後を理解し説明することができるようになる。	
9	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
10	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
11	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
12	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
13	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
14	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。	
15	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。	

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	生理学 1・柔整生理Aの講義内容の復習は必須である。説明できるよう整理しておくこと。
使用教材	P C・配布資料・生理学改訂第4版 彼末一之 著（南江堂）
留意点 備 考	自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系の機能 1	神経系の構成【中枢神経系・末梢神経系・脊髄の機能】 神経系の構成について説明できる。	
2	神経系の機能 2	興奮の伝導と伝達【伝導の原則・シナプス・神経線維の分類】 伝導の原則について説明できる。	
3	神経系の機能 3	興奮伝達【シナプスの構造と機能・伝達の仕組み、特徴】 興奮伝導と伝達の違いについて説明できる。	
4	神経系の機能 4	自律神経系【自律神経とは・伝達物質・機能】 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	
5	神経系の機能 5	自律神経系【視床下部・大脳辺縁系の機能】 本能行動と情動行動について説明できる。	
6	神経系の機能 6	脊髄反射【反射弓】 伸張反射の反射弓を図示することができる。	
7	神経系の機能 7	大脳 高次機能【機能局在】 機能局在を説明することができる。	
8	神経系の機能 8	大脳 高次機能【運動機能】 運動出力について説明することができる。	
9	神経系の機能 9	小脳【協調運動】 機能と運動失調を説明できる。	
10	体液の生理 1	体液【体液区分】 体液を区分して説明できる。	
11	体液の生理 2	体液の調節【体液量、浸透圧調節】 体液調節の概要について説明できる。	
12	血液 1	血液の機能【役割・血液組成・血球機能】 血液の機能と血球の種類について説明できる。	
13	血液 2	血液型【ABO式血液型・輸血】 ABO式血液型について説明できる。	
14	血液 3	血液凝固【止血機序・凝固因子・線溶系】 止血機序について説明できる。	
15	総まとめ	前期内容の補填および復習 前期内容を説明することができる。	

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	細胞 1	細胞内小器官の役割を知る。 小器官の特徴を説明できる。	
2	細胞 2	物質移動の基本を知る。 人に説明できる。	
3	血液 1	成分とその役割を知る。 それぞれの特徴を知り、分類分けができる。	
4	血液 2	構造と機能を理解し、人に説明できる。	
5	心臓 1	解剖学的な構造を知り、説明できる。	
6	心臓 2	心臓が動く仕組みを知り、説明できる。	
7	心臓 3	心周期について知り、説明できる。	
8	脈管 1	上行大動脈～上腕動脈までの繋がりを知り、説明できる。	
9	脈管 2	上肢、頭部、胸腹部の繋がりを知り、説明できる。	
10	脈管 3	下肢の動脈の繋がりを知り、説明できる。	
11	脈管 4	全身の動脈の繋がりについて知り、説明できる。	
12	脈管 5	静脈について知り、説明できる。	
13	脈管 6	門脈系について知り、説明できる。	
14	脈管 7	胎児循環について知り、説明できる。	
15	総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。	

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で施術を担当する。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	物理療法機器の原理、使用方法、効果、禁忌について学ぶ。
到達目標	物理療法機器の原理、作用などを学び、診療に役立てることができるようになる。

準備学習 時間外学習	授業後は必ず、教科書を読み復習する必要がある。
使用教材	柔道整復学理論編第6版、プリント配布
留意点 備 考	50分授業

成績評価	ペーパー試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	概 要	物理療法の定義、分類について理解する。	
2	安全対策	インフォームドコンセント、禁忌について理解する。	
3	電気療法 1	概要、電気刺激の3要素について理解し、説明できるようになる。	
4	電気療法 2	低周波電気刺激療法について理解し説明できるようになる。	
5	電気療法 3	TENS、低周波電気刺激療法、中周波電気療法の効果、禁忌などについて理解し説明できるようになる。	
6	温熱療法 1	電動熱療法（ホットパック療法）の使用方法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
7	温熱療法 2	パラフィン浴療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
8	温熱療法 3	水治療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
9	温熱療法 4	輻射熱療法（赤外線療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
10	温熱療法 5	変換熱療法（マイクロ波）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
11	温熱療法 6	超音波療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
12	温熱療法 7	光線療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
13	寒冷療法 1	概要、伝導冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
14	寒冷療法 2	対流冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
15	牽引療法 1	頸椎介達牽引の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
	Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で施術を担当する。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り	
2	導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。	
3	指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。	
4	指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。	
5	指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。	
6	指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。	
7	指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。	
8	指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）	
9	評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。	
10	手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
11	樹脂副子 1	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
12	樹脂副子 2	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
13	総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯	
14	総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。
------	--------	-------	------------------------------------

学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。

準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に次回に小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	--------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 各論（鎖骨） 長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できるようになる。	
2	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。	
3	骨 3	総論（骨の連結） 各論（上腕骨） 骨の成長や縫合の理解し、上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。	
4	骨 4	総論（関節の種類） 各論（橈骨・尺骨） 関節の構造・種類の理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から触知できるようになる。	
5	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。	
6	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靱帯・関節の動き知り説明できるようになる。	
7	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。	
8	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。	
9	骨 9	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の特別型・胸椎の構造の理解し説明できるようになる。	
10	骨 10	各論（腰椎・仙骨・頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨） 腰椎・仙骨の構造や頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。	
11	骨 11・関節 2	各論（頭蓋骨・骨盤） 下顎骨や頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門や骨盤を構成する骨や分界線の理解し説明できるようになる。	
12	関節 3	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
13	関節 4	各論（膝関節から足関節） 膝・足関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
14	関節 5	各論（脊柱の連結・胸郭の連結） 脊柱と頭蓋、胸郭の関節の名称とそれに付属する靱帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
15	体表解剖・筋	体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002～2010大学病院、公立病院に勤務、2010～開業
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	神経、筋を中心に生理学を学ぶ。動物機能を基礎から学び、運動生理学の理解へつなげる。
到達目標	国家試験の生理学分野の知識を習得する。解剖学、病理学、運動学、一般臨床医学をはじめとした他の科目の学修にあたり、必要な基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	教科書、配布プリント、及びノートの予習復習を欠かさないこと
使用教材	教科書「生理学 第4版」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋の生理 1	オリエンテーション、骨格筋の構造について説明ができる。	
2	筋の生理 2	骨格筋の収縮と弛緩について説明ができる。	
3	筋の生理 3	骨格筋と張力、筋電図について説明ができる。	
4	筋の生理 4	心筋と平滑筋について説明ができる。	
5	神経の生理 1	ニューロン、静止膜電位、活動電位について説明ができる。	
6	神経の生理 2	活動電位の伝導、シナプスについて説明ができる。	
7	神経の生理 3	神経伝達物質、神経系の構成について説明ができる。	
8	神経の生理 4	脳の構造、大脳皮質について説明ができる。	
9	神経の生理 5	高次機能（睡眠、覚醒、脳波）について説明ができる。	
10	神経の生理 6	自律神経の分類、分布について説明ができる。	
11	神経の生理 7	自律神経の構成について説明ができる。	
12	神経の生理 8	運動に関係する中枢神経について説明ができる。	
13	神経の生理 9	運動神経と運動単位について説明ができる。	
14	復習	前期のまとめ	
15	試験解説	前期試験解説、振り返り	

科目名 【英】	基礎医学講座 Course of Basic Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	医学を学ぶ上で最も基本となる体の骨格について学ぶ
到達目標	模型などを使い他者へ説明出来るようになる

準備学習 時間外学習	教科書の音読
使用教材	解剖学 骨模型
留意点 備 考	実習室にて行う

成績評価	期末試験 80% 小テスト20%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	導入教育	この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう	
2	上肢帯	肩甲骨・鎖骨について学習しポイントの理解を深める。	
3	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。	
4	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。	
5	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する	
6	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する	
7	中間確認実技テスト①	上肢の骨、筋に対する確認試験を行う。	
8	下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。	
9	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。	
10	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。	
11	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する	
12	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する	
13	中間確認実技テスト②	下肢の骨、筋に対する確認試験を行う。	
14	総復習	履修した内容について再度確認を行う	
15	試験解説	前期末試験の解説	

科目名 【英】	柔整基礎講座 3 Course of Basic Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。
到達目標	解剖生理学の神経系の構造を把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備 考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2		消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3		消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4		消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5		消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6		消化器と内分泌	消化器に関係するホルモンを知り、説明できるようになる。
7		肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できる。
8		肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できる。
9		泌尿器	腎の構造について知り、説明できる。
10		泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できる。
11		泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できる。
12		泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
13		泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
14		総復習	消化器系・泌尿器系の演習問題を行い、知識の定着を図る。
15		総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	柔整基礎講座 4 Course of Basic Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	柔整生理Bの講義内容の復習は必須である。説明できるよう整理しておくこと。
使用教材	P C ・配布資料・生理学改訂第4版 彼末一之 著（南江堂）
留意点 備 考	自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		筋生理 1	筋組織【筋の分類と特徴】 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を説明できる。
2		筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。
3		感覚 1	視覚器【視覚器の解剖】 眼球構造を説明できる。
4		感覚 2	視覚【光受容のしくみ①】 光量調節と遠近調節の機序を説明できる。
5		感覚 3	視覚【光受容のしくみ②】 光受容と視覚伝導路を説明できる。
6		感覚 4	聴覚・平衡器【解剖】 聴覚器の構造を説明できる。
7		感覚 5	聴覚・平衡器【音と加速度の検出】 音と加速度の受容について説明できる。
8		感覚 6	嗅覚と味覚【嗅上皮、舌】 嗅覚と味覚の伝導路を説明できる。
9		生殖 1	性決定と性分化【遺伝的性とは】 遺伝的性と性分化について説明できる。
10		生殖 2	男性生殖【精子形成】 精子形成について説明できる。
11		生殖 3	女性生殖【性周期】 月経周期と卵巣周期を説明できる。
12		生殖 4	女性生殖【妊娠と分娩】 受精から分娩までを説明できる。
13		生殖 5	骨生理【骨組織】 骨組織について説明できる。
14		生殖 6	骨生理【カルシウム代謝】 Ca代謝に関わるホルモンを説明できる。
15		総まとめ	後期内容の補填および復習 後期内容を説明することができる。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	岩本 曉美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	鎖骨骨折 1	【解剖、概説、発生機序、転位、症状】 鎖骨の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
2	鎖骨骨折 2	【合併症、整復法、固定法、後療法、後遺症】 鎖骨骨折の後遺症を理解し、整復固定法を行うことができる。
3	鎖骨脱臼 1	【概説、胸鎖関節脱臼】 鎖骨周辺の靭帯について理解し、鎖骨脱臼の予後について説明することができる。
4	鎖骨脱臼 2	【肩鎖関節脱臼】 症状や固定法などについて説明することができる。
5	頭部・顔面の骨折 1	【解剖、頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折】 頭部の構造、通過する神経などを理解し、症状について説明できる。
6	頭部・顔面の骨折 2	【鼻骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折】 それぞれの骨折の特徴について説明できる。
7	顎関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 顎関節の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
8	顎関節脱臼 2	【後方脱臼、側方脱臼】 前方脱臼との違いについて説明することができる。
9	頭部・顔面の 軟部組織損傷	【打撲、顎関節症、顎関節捻挫】 顎関節症の分類と特徴について説明することができる。
10	頸椎の骨折	【解剖、頸椎の骨折】 頸椎・胸椎・腰椎の骨折を混乱せずに説明することができる。
11	頸椎の脱臼	【頸椎の脱臼および脱臼骨折】 頸椎の骨折および脱臼においての
12	頸部の 軟部組織損傷 1	【むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違え】 むちうち損傷および胸郭出口損傷の分類を覚え、それぞれの特徴について説明できる。
13	頸部の 軟部組織損傷 2	【頸部で注意すべき疾患】 整形外科領域の疾患を知り、説明することができる。
14	口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 2 Clinical Judo Therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。	
2	肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。	
3	上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。	
4	上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。	
5	上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。	
6	肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。	
7	肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。	
8	肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。	
9	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。	
10	肩関節部の軟部組織損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。	
11	肩関節部の軟部組織損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。	
12	肩関節部の軟部組織損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。	
13	肩関節部の軟部組織損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。	
14	口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。	
2	胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。	
3	胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。	
4	胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。	
5	その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。	
6	注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。	
7	腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。	
8	腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。	
9	腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。	
10	腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。	
11	上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。	
12	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。	
13	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。	
14	口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	運動器の解剖、骨折・脱臼・軟部組織損傷を学び、鑑別に役立てる
到達目標	運動器の解剖と各損傷を結びつけて損傷を説明できるようになる

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肋骨骨折 肋軟骨骨折 1	胸背部の構造を理解し、肋骨骨折の概説や発生機序について説明できる。	
2	肋骨骨折 肋軟骨骨折 2	肋骨骨折の症状、合併症、治療法について説明できる。	
3	胸骨骨折	胸骨周辺の解剖を理解し、胸骨骨折の概説や発生機序について説明できる。	
4	胸・背部の解剖	胸背部の解剖について説明できる。	
5	胸椎の骨折	椎骨周辺の解剖を理解したうえで損傷の発生機序・症状を説明できる。	
6	腰椎の骨折	椎骨周辺の解剖を理解したうえで損傷の発生機序・症状を説明できる。	
7	胸・腰椎の脱臼	胸・腰椎の脱臼について説明できる。	
8	胸部の 軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷について説明できる。	
9	腰部の 軟部組織損傷	腰部捻挫を関節性、靱帯性、筋・筋膜性に分けて理解することができる。	
10	上腕骨骨幹部骨折 1	上腕部の解剖と機能を理解し、上腕骨骨幹部骨折の発生機序や症状について説明できる。	
11	上腕骨骨幹部骨折 2	合併症、転位、後遺症について説明できる。	
12	上腕骨骨幹部骨折 3	整復法、固定法、後療法、予後について説明できる。	
13	上腕部の 軟部組織損傷	上腕部を走る末梢神経について説明できる。	
14	口頭試問	基礎各論 4 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーション	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる	
2	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 1 各障害の特徴を説明できる	
3	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷 2 各障害の特徴を説明できる	
4	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 その他疾患を知る	
5	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症の注意点を説明できる	
6	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 変形性股関節症の注意点を説明できる	
7	大腿部損傷	大腿部損傷 大腿部の筋肉の解剖を説明できる	
8	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の特徴を説明できる	
9	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の分類を説明できる	
10	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の治療上の注意点を説明できる	
11	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 1 大腿部打撲について説明できる	
12	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷 2 大腿四頭筋肉ばなれについて説明できる	
13	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷・注意すべき疾患 ハムストリングス肉離れの理解及び骨化性筋炎を説明できる	
14	総復習	総復習 授業内容を再点検する	
15	試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる	

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で施術を担当する。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	三角巾	三角巾で提肘できるようになる。	
2	肘の包帯	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。	
3	副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。	
4	副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。	
5	枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。	
6	肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。	
7	肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
8	肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。	
9	樹脂副子 1	ブライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。	
10	樹脂副子 2	ブライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。	
11	特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯	
12	特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯	
13	特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯	
14	総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	山田 靖典 堀口 晃一	実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務 (堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	----------------	-------	---

学習内容	大関節の評価を行い施術の基礎を学ぶ。
到達目標	柔道整復師学科に入って良かったと思えるようになり、次年度に向け 勉学の意欲をわかす。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備 考	抜き打ち小テストを実施

成績評価	授業評価、筆記テスト
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】				
1	臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす	90分	
2	SFMAについて	SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。	90分	
3	頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分	
4	頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分	
5	頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分	
6	肩評価法	肩関節の評価を知る	90分	
7	肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分	
8	肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分	
9	多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分	
10	多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分	
11	多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分	
12	多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分	
13	多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分	
14	多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分	
15	筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分	
16	オリエンテーション	柔道整復師として必要な臨床の知識を説明することができる。	50分	
17	手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分	
18	手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分	

19		手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
20		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
21		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
22		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
23		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
24		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
25		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
26		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
27		物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
28		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
29		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
30		固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分

科目名 【英】	柔整解剖B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだぎ鍼灸整骨院にて従事。現在に至る。
------	--------	-------	------------------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	授業毎に小テストを実施する。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。
2		筋 2	上腕の筋 上腕の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
3		筋 3	前腕の屈筋 前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
4		筋 4	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋と伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。
5		筋 5	前腕の伸筋 手の筋 前腕の伸筋と手の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。
6		筋 6	下肢帯の筋（内・外寛骨筋） 内・外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。
7		筋 7	下肢帯の筋（外寛骨筋） 大腿の屈筋・伸筋 大腿の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。
8		筋 8	大腿の内転筋 大腿の内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。
9		筋 9	下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
10		筋 10	下腿の屈筋 足の筋 顔面筋 咀嚼筋 下腿の屈筋、咀嚼筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
11		筋 11	舌骨上・下筋 浅・深頸筋 胸部の筋 舌骨上・下筋、浅・深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
12		筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。
13		筋 13	浅・深背筋 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。
14		筋 14・骨 体表解剖 1	頭蓋底 体表解剖P280～287 頭蓋底の孔に通る血管・神経を説明できる。また体表から筋を触知、確認できる。
15		体表解剖 2 映像解剖	頸部の三角 体表解剖P287～296 映像解剖 頸部の三角を構成するものを説明できる。脈管・神経等を確認、推定し説明できる。また生体計測を説明できる。画像診断の装置を理解し説明できる。

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学 第4版」(南江堂)
留意点 備 考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋①	骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。	
2	筋②	興奮収縮連関について説明できる。	
3	筋③	筋と張力、長さの関係について説明できる。	
4	筋④	平滑筋、心筋について説明できる。	
5	感覚①	感覚の分類について説明できる。	
6	感覚②	一般感覚の種類、内容について説明できる。	
7	感覚③	嗅覚、味覚について説明できる。	
8	感覚④	目の生理学的機能、視覚について説明できる。	
9	感覚⑤	聴覚、前庭感覚について説明できる。	
10	生殖①	発生学的観点から、生殖系について説明できる。	
11	生殖②	男性生殖器とその機能について説明できる。	
12	生殖③	女性生殖器とその機能について説明できる。	
13	骨①	骨の構造と成長について説明できる。	
14	骨②	カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。	
15	試験返却	試験返却【後期で学んだ全範囲】 筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。	

科目名 【英】	解剖生理学 1 Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	池 宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療に最も必要不可欠な基礎学問である解剖学・生理学を学ぶ。
到達目標	人体を形態的・機能的に追究し臨床に繋げられるようになる。 柔道整復師の国家試験に向かって知識レベルを上げる。

準備学習 時間外学習	1年生で学んだ解剖学・生理学の教科書を再度読み理解度を再認識する。国試の過去問題を多く解く。
使用教材	解剖学 生理学 （医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験のみで100%評価
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（1）	内分泌腺と外分泌腺との比較の説明ができる。下垂体の前葉・後葉から分泌されるホルモンを説明できる。神経分泌・下垂体門脈の特徴を説明できる。	
2	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（2）	松果体の形態と機能を説明できる。甲状腺と上皮小体を説明できる。	
3	内分泌系 内分泌腺の形態と機能（3）	副腎・膵臓・精巣・卵巣から分泌されるホルモンを説明できる。	
4	神経系 神経系の基礎	神経系の区分を説明できる。 脳室・脳脊髄液を説明できる。	
5	神経系 中枢神経 脳	大脳（皮質・髄質）、間脳（視床・視床下部）について説明できる。	
6	神経系 中枢神経 脳	脳幹（中脳・橋・延髄）・小脳について説明できる。	
7	神経系 脳・脊髄	伝導路・脳脊髄神経について説明できる。。	
8	神経系 自律神経	交感神経・副交感神経について説明できる。。	
9	脈管系 総論 心臓	弁・心膜・伝導系について説明できる。	
10	脈管系 動脈系	大動脈と各部の動脈について説明できる。	
11	脈管系 静脈系・リンパ系・胎児循環	大静脈と各部の静脈を説明できる。胎児循環の特徴を説明できる。リンパ系（本幹、リンパ節）を説明できる。	
12	内臓系 消化器系（1）	口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門について説明できる。	
13	内臓系 消化器系（2）	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜について説明できる。	
14	呼吸器系（1）	ガス交換・外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について説明できる。	
15	呼吸器系（2）	気管・気管支・肺・胸膜について説明できる。	

科目名 【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解できる。	
2	運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解できる。	
3	運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解できる。	
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 1 【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。	
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2 【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解できる。	
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3 【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解できる。	
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 4 【股関節】 股関節の構造・機能について理解できる。	
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 5 【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解できる。	
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 6 【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。	
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 7 【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 8 【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。	
12	運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解できる。	
13	運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解できる。	
14	運動学 14	運動発達 運動発達について理解できる。	
15	運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解できる。	

科目名 【英】	整形外科学 Orthopedic Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識②	筋 靱帯 腱の基礎知識、運動器の科学の理解と習得	
2	整形外科診察法②	跛行 拘縮・強直 知覚 反射の理解と習得	
3	整形外科検査法②	電気生理学的検査・関節鏡検査・超音波検査の診方の理解と習得	
4	整形外科的治療法②	観血的治療の意味と意義と方法の理解と習得	
5	骨・関節損傷総論②	小児骨折・開放骨折・疲労骨折・病的骨折の診断・治療の理解と習得	
6	スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科の役割と位置づけの理解と習得	
7	感染性疾患②	ブロディー骨膿瘍・骨関節結核・化膿性関節炎の理解と習得	
8	骨および軟部腫瘍②	良性骨腫瘍の基礎 診断 治療法の理解と習得	
9	変形性関節症	変形性関節症の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
10	結晶誘発性関節炎	結晶誘発性関節炎の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
11	血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症の病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
12	骨粗鬆症②	骨粗鬆症の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患②	軟骨無形成性・モルキオ病・骨形成不全症の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
14	骨端症①	骨端症の総論・ペルテス病・オスグッド病・プラント病の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
15	四肢循環障害	末梢動脈・静脈疾患の病態 原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	

科目名 【英】	病理学概論 Introduction of Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	西浦 弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間
------	-------	-------	--

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率60%を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論 改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備 考	授業中静粛にする

成績評価	試験100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇄後天性疾患-1	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
2	III. 循環障害-1	授業内容（血液やリンパ循環の障害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
3	IV. 細胞障害-1	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
4	V. 増殖と修復-1	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
5	VI. 炎症-1	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
6	VI. 炎症-3	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
7	VII. 免疫-1	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
8	VII. 免疫-3	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
9	VIII. 腫瘍-1	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。	
10	I. 病因・II. 先天異常⇄後天性疾患-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
11	VI. 炎症-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
12	VII. 免疫-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
13	VIII. 腫瘍-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
14	総まとめ-1	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	
15	総まとめ-3、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率60%を確認する。	

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 1 Clinical Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	正木 大吾	実務者経験	整骨院開業26年目、骨折脱臼の臨床約1,000症例。
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	各骨折、脱臼の特徴、発生機序、症状、鑑別疾患、合併症、後遺症を学び整復法、固定法、後療法を学ぶ
到達目標	転位の大きい骨折や脱臼は鑑別しやすいが小児や高齢者は軽微な外力でも骨折を起こすので臨床経験から不全骨折、若木骨折などの鑑別法を理解させる。また骨片転位の大きな場合の立体的な転位を理解させ整復操作ができるようにさせる。

準備学習 時間外学習	解剖学の骨、筋、神経の復習
使用教材	柔道整復学理論編と柔道整復学実技編
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100点
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復師の業務	柔道整復師の業務（外傷性疾患の施術、通所介護での機能訓練）の臨床を理解することができるようになる。
2		肘関節部の解剖と機能	肘関節部の解剖と機能。肘関節部の損傷を理解できるようになる。
3		上腕骨顆上骨折 1	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、骨折線、骨片転位が例解できるようになる。
4		上腕骨顆上骨折 2	小児肘関節部のレントゲン写真の特徴を学ぶ。成人と小児のレントゲン写真の違いを理解させ tilting angle やBaumann角を教え骨折時の骨片転位を理解できるようになる。
5		上腕骨顆上骨折 3	上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型骨折の発生機序、症状、肘関節後方脱臼との類症鑑別を理解できるようになる。
6		上腕骨顆上骨折 4	上腕骨顆上骨折の合併症、循環障害、フォルクマン拘縮、正中・橈骨・尺骨神経損傷を学び臨床での検査法、鑑別ができるようになる。
7		上腕骨顆上骨折 5	上腕骨顆上伸展型骨折と屈曲型骨折の整復法、固定法、後療法を学び理解できるようになる。
8		上腕骨顆上骨折 6	上腕骨顆上骨折の後遺症を学ぶ。上腕骨特徴と複雑な骨折線が理解できるようになる。
9		上腕骨外顆骨折	上腕骨外顆骨折の pull of・push off型の発生機序、骨折線と骨片転位、整復法、固定法、後療法を理解することが出来るようになる。
10		上腕骨内側上顆骨折 1	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、分類、が理解できるようになる。
11		上腕骨内側上顆骨折 2	上腕骨内側上顆骨折の骨折型、成人と小児の違い、骨端線離開、Little leaguer's elbowの病態を理解出来るようになる。
12		橈骨近位端部骨折	橈骨近位端部骨折の発生機序、骨折型、成人と小児の違い、症状、合併症が理解できるようになる。
13		肘頭骨折	肘頭骨折の発生機序、症状、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		肘関節脱臼	肘関節脱臼の分類、肘関節後方、前方、側方、開排脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症、を理解できるようになる。
15		前期試験の解答と解説	前半は前期試験問題の詳しい解説と回答。後半は橈骨頭単独脱臼、肘内障の発生機序、症状、整復法が理解できるようになる。

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 2 Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。 柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	膝関節の解剖と機能 1	評価基準・講義に関する略号・膝関節【膝関節部の解剖・下肢のアライメント・膝蓋骨の機能・バイオメカニクス】膝周辺の解剖やアライメント・機能に関して説明ができる	
2	大腿遠位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折【顆上骨折・大腿骨遠位骨端線離開・顆部骨折】大腿骨の顆上骨折や遠位骨端線離解、顆部骨折について説明ができる	
3	大腿遠位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折【MCL付着部裂離骨折・Periglini-Stieda骨折】MCL付着部裂離骨折・Periglini-Stieda骨折の説明ができる	
4	大腿遠位端部骨折 3 下腿骨近位端部骨折 1	小テスト。前回の復習。大腿骨遠位端部骨折・下腿骨解剖【MCL付着部裂離骨折・Periglini-Stieda骨折】MCL付着部裂離骨折・Periglini-Stieda骨折の説明ができる	
5	下腿近位端部骨折 2	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折】下腿近位端部の顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折について説明ができる	
6	下腿近位端部骨折 3	小テスト。前回の復習。下腿近位端部骨折【脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折】下腿近位端部の脛骨粗面隆起骨折・腓骨頭単独骨折・Segond骨折について説明ができる	
7	膝関節脱臼 膝蓋骨骨折	小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼】・膝蓋骨骨折【分類・症状など】膝関節脱臼・膝蓋骨骨折について説明ができる。	
8	膝蓋骨脱臼 膝の軟部組織損傷 1	小テスト。前回の復習。膝蓋骨脱臼【分類・症状など】半月板損傷【半月板の機能・損傷の分類など】膝蓋骨脱臼・半月板の機能や損傷の分類が説明できる。	
9	膝の軟部組織損傷 2	小テスト。前回の復習。半月板損傷【発生機序・症状・検査法・治療法など】半月板損傷の説明ができる。	
10	膝の軟部組織損傷 3	小テスト。前回の復習。靱帯損傷【十字靱帯や側副靱帯の機能、発生機序・症状など】靱帯損傷の説明ができる。	
11	膝の軟部組織損傷 4	小テスト。前回の復習。小児の膝変形【原因疾患】・ジャンパー膝【オスグッド病・SLJ病等】小児の膝変形やジャンパー膝についての説明ができる。	
12	膝の軟部組織損傷 5	小テスト。前回の復習。分裂膝蓋骨【疫学・分類など】・腸脛靱帯炎・鵞足炎。分裂膝蓋骨や腸脛靱帯炎・鵞足炎についての説明ができる。	
13	膝の軟部組織損傷 6	小テスト。前回の復習。膝蓋大腿関節障害・関節包滑液包の異常・神経麻痺【総腓骨神経・伏在神経】膝蓋大腿関節障害・関節包や滑液包の異常・足の神経麻痺についての説明ができる。	
14	膝の軟部組織損傷 7	小テスト。前回の復習。その他の疾患【悪性腫瘍・離断性骨軟骨炎・関節リウマチ・偽性痛風・大腿骨顆部骨壊死・変形性膝関節症】その他の疾患の概要が説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 3 Clinical Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	柔道整復学における前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷及び手関節部における軟部組織損傷に対する病態、症状、治療法について学ぶ。
到達目標	症状や発生機序を理解し傷病の決定、治療法の決定ができる。臨床現場において実際に活用できるレベルかつ、柔整国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（特に筋学、骨学）の予習復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	前腕部損傷 1	前腕部の解剖と機能を理解、説明できる。前腕骨骨幹部骨折の概要を説明できる。	
2	前腕部損傷 2	橈骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、が説明できる。	
3	前腕部損傷 3	橈骨骨幹部骨折の合併症、治療法、後遺症が説明できる。ガレアジ骨折の病態の説明ができる。	
4	前腕部損傷 4	尺骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、治療法が説明できる。	
5	前腕部損傷 5	モンテギア骨折の概説、分類、治療法、後遺症の説明ができる。	
6	前腕部損傷 6	橈尺両骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、合併症、の説明ができる。	
7	前腕部損傷 7	橈尺両骨骨幹部骨折の治療法、後遺症、難治理由の説明ができる。	
8	前腕部損傷 8	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群の概説、症状、治療法の説明ができる。	
9	前腕部損傷 9	正中神経障害（回内筋症候群）（前骨間神経麻痺）の概説、症状、治療法の説明ができる。	
10	前腕部損傷 10	橈骨神経麻痺（後骨間神経麻痺）尺骨神経障害（肘部管症候群）の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。	
11	手関節部の損傷 1	橈骨遠位端部骨折の分類の説明ができる。	
12	手関節部の損傷 2	コーレス骨折の概説、発生機序、転位、変形、整復法、固定法、後療法、合併症の説明ができる。	
13	手関節部の損傷 3	スミス骨折の概説、転位、発生機序、症状の説明ができる。	
14	手関節部の損傷 4	バートン骨折、ショウファー骨折、遠位骨端線離開の概説、特徴の説明ができる。	
15	試験解説	前期試験解説	

科目名 【英】	臨床柔整学 応用各論 4 Clinical Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	上肢の骨折・脱臼および軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	1. 疾患概念を説明できる。 2. 各損傷におけるポイントを説明できる。 3. 手関節部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	手関節部の解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。 授業中に実施する復習プリントで随時振り返りをしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第6版（南江堂） / PC / 配布資料
留意点 備 考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。
------	-------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	手根骨骨折 1	舟状骨骨折①【解剖・概要・発生機序・分類】 舟状骨の解剖学的特徴について説明できる。	
2	手根骨骨折 2	舟状骨骨折②【症状・治療】 本症の症状、難治理由を説明できる。	
3	手根骨骨折 3	有鉤骨骨折【受傷機序・症状】 有鉤骨鉤骨折の受傷機序を説明し、鉤部を触知することができる。	
4	手根骨骨折 4	他手根骨骨折【概要・分類・症状・治療】 各手根骨骨折における特徴を挙げることができる。	
5	手根骨骨折 5	月状骨骨折【受傷機序・症状】 本症と月状骨脱臼との違いを説明できる。	
6	手関節脱臼 1	橈骨手根関節・遠位橈尺関節脱臼【分類・受傷機序・症状】 本症の分類と受傷機序を関連づけて説明できる。	
7	手関節脱臼 2	月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼【概要・受傷機序・症状】 本症の症状について説明できる。	
8	手関節軟部組織損傷 1	TFCC損傷【解剖・分類・症状・治療】 本症の疾患概念を説明できる。	
9	手関節軟部組織損傷 2	手関節部腱鞘炎【解剖・症状・治療】 ドケルバン病の疾患概念を説明できる。	
10	手関節軟部組織損傷 3	骨関節疾患【概要・症状・分類・治療】 キーンベック病、マーデルング変形の疾患概念を説明できる。	
11	末梢神経障害 1	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。	
12	末梢神経障害 2	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。	
13	末梢神経障害 3	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。	
14	末梢神経障害 4	尺骨神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 ギヨン管症候群の症状を説明することができる。	
15	総復習	前期範囲の内容補填および復習	

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 1 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	4.5.6裂包帯、さらし、三角巾、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備 考	包帯用ファイルを持参し、挟んでいく。

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	足部の包帯 1	【足関節 上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
2	足部の包帯 2	【足関節 下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。	
3	足部の包帯 3	【釦帯】 釦帯の走行を覚え、巻くことができる。	
4	足部の包帯 4	【踵離開亀甲帯 + 三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る	
5	足部の包帯 5	【足部の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる	
6	下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。	
7	膝部の包帯 1	【膝関節離開亀甲帯】 膝関節離開亀甲帯を覚え、巻くことができる。	
8	膝部の包帯 2	【膝関節集合亀甲帯】 膝関節集合亀甲帯を覚え、巻くことができる。	
9	冠名包帯 1	【ヴェルボー包帯】 ヴェルボー包帯を覚え、巻くことができる。	
10	冠名包帯 2	【ジュール包帯】 ジュール包帯を覚え、巻くことができる。	
11	冠名包帯 3	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）を覚え、巻くことができる。	
12	冠名包帯 4	【冠名包帯の復習】 各包帯法の走行を混乱せずに巻くことができる	
13	骨折固定	【肋骨骨折 固定法（さらし・厚紙副子）】 肋骨骨折 固定法を覚え、巻くことができる。	
14	総復習	【試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるようになる。	
15	固定法の組合せ	【肩関節上行麦穂帯 + 三角巾】 3年次に向けて固定法の組合せを知り、巻くことができる。	

科目名 【英】	柔整コンディショニング実習 2 Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また筋肉について理解を深める
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得

準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト
留意点 備 考	出席率 100%により受講資格が発生する

成績評価	座学20問（4択問題）60%以上の正答率。実技3題の評価
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ストレッチングについて	ガイダンス。P2～10 ストレッチングについて学ぶ。
2		ストレッチング 下肢	大腿部前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
3		ストレッチング 下肢	大腿部後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
4		ストレッチング 下肢・体幹	大腿部内側面・股関節前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
5		ストレッチング 体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
6		ストレッチング 体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
7		検定に向けて	総復習。試験対策
8		筋実習 1	体幹の筋について理解し、説明できるようになる。
9		筋実習 2	上肢帯について理解し、説明できるようになる。
10		筋実習 3	上腕の筋について理解し、説明できるようになる。
11		筋実習 4	前腕・手部の筋について理解し、説明できるようになる。
12		筋実習 5	大腿屈筋について理解し、説明できるようになる。
13		筋実習 6	大腿伸筋について理解し、説明できるようになる。
14		筋実習 7	下腿の筋について理解し、説明できるようになる。
15		筋実習 8	総まとめ

科目名 【英】	柔道整復実技 1 Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	医療面接・徒手検査法・反射検査・感覚検査・運動機能検査を学ぶ
到達目標	臨床実習前教育で身につけておく基本的臨床能力を身につける

準備学習 時間外学習	一般臨床医学の検査法・リハビリテーション医学MMT、ROMを参照
使用教材	実技マニュアル・一般臨床医学
留意点 備 考	実技なのでK Cで白Tシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	身体触診法	四肢長・四肢周径・MMT・ROM行うことができる。	
2	体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。	
3	徒手検査 1	ジャクソンテスト・スパーリングテスト・上肢深部健反射・上肢病的反射を行うことができる。	
4	徒手検査 2	SLRテスト、FNSテスト、ケンプ徴候、下肢深部健反射、下肢病的反射を行うことができる。	
5	徒手検査 3	運動機能検査、（バレー徴候、指鼻試験、ロンベルグ試験）を行うことができる。	
6	徒手検査 4	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。	
7	徒手検査 5	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。	
8	徒手検査 6	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。	
9	徒手検査 7	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。	
10	徒手検査 8	膝関節検査法 1（側方動揺性、アブレー牽引）を行うことができる	
11	徒手検査 9	膝関節検査法 2（前方引き出し、ラックマン、Nーテスト）を行うことができる。	
12	徒手検査 10	膝関節検査法 3（マックマレーテスト、アブレー圧迫、ワトソングジョーンズ）を行うことができる。	
13	徒手検査 11	下腿三頭筋（誘発テスト、トンブソンテスト）を行うことができる。	
14	徒手検査 12	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。	
15	徒手検査 13	前期振り返り・総復習	

科目名 【英】	臨床実習 2 Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6. 7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	医療者が臨床に必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	1年次の臨床実習の復習が望ましい
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや一版臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。
2		医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（スタンダード・プリコーション）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。
3		診察法 1	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。
4		診察法 2	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。
5		診察法 3	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。
6		診察法 4	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。
7		診察法 5	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。
8		診察法 6	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。
9		診察法 7	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。
10		外部臨床実習 ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。
11		ロールプレイング1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。
12		ロールプレイング2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。
13		ロールプレイング3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク、掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方、座らせ方、起こし方、立たせ方など）を実施することができる。

14		振り返り 1	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。
15		振り返り 2	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。
16		検査法 1	上肢の検査法を実施することができる。
17		検査法 2	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18		検査法 3	下肢の検査法を実施することができる。
19		リフレクソロジー1	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
20		リフレクソロジー2	リフレクソロジーを理解し、実施することができる。
21		MMT 1	MMTについて理解することができる。
22		MMT 2	MMTについて理解することができる。
23		MMT 3	MMTについて理解することができる。

科目名 【英】	柔道整復応用講座 1 Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6
担当教員	角田 晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施				
学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。						
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靱帯、筋について説明できる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。						
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	期末試験 100%						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学 1	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。	
2	運動学 2	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解し、各関節での実際を想起できる。	
3	運動学 3	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解し、それを説明できる。	
4	運動学 4	四肢と体幹の運動 1 【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
5	運動学 5	四肢と体幹の運動 2 【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
6	運動学 6	四肢と体幹の運動 3 【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。	
7	運動学 7	四肢と体幹の運動 4 【股関節】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
8	運動学 8	四肢と体幹の運動 5 【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
9	運動学 9	四肢と体幹の運動 6 【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。	
10	運動学 10	四肢と体幹の運動 7 【体幹・脊柱・顔面・頭部 1】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。	
11	運動学 11	四肢と体幹の運動 8 【体幹・脊柱・顔面・頭部 2】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。	
12	運動学 12	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。	
13	運動学 13	歩行 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。	
14	運動学 14	運動発達 運動発達について理解し、これを想起できる。	
15	運動学 15	運動学習 運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。	

科目名 【英】	柔道整復応用講座 4 Course of Judo Therapy Advanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	骨・関節・筋・靱帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器の基礎知識①	骨 関節の基礎知識の理解と習得	
2	整形外科診察法①	姿勢 四肢・体幹 上下肢長の診方 計測法の理解と習得	
3	整形外科検査法①	画像検査 骨密度検査の原理と診方の理解と習得	
4	整形外科的治療法①	保存療法の意味と意義と方法の理解と習得	
5	骨・関節損傷総論①	骨折の定義・分類・症状・診断・治療の理解と習得	
6	骨・関節損傷総論③	骨折の合併症 関節損傷の理解と習得	
7	感染性疾患①	感染の基礎 急性化膿性骨髄炎 慢性骨髄炎の理解と習得	
8	骨および軟部腫瘍①	悪性骨腫瘍の基礎 診断 治療法の理解と習得	
9	骨および軟部腫瘍③	悪性・良性軟部腫瘍の基礎 診断 治療法の理解と習得	
10	関節リウマチ	関節リウマチの原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
11	その他の骨関節疾患	血友病性関節症・離断性骨軟骨炎・関節遊離体の症状 病態 治療の理解と習得	
12	骨粗鬆症①	骨粗鬆症の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
13	先天性の骨・軟骨疾患①	遺伝形式基礎と先天性骨系統疾患の総論についての理解と習得	
14	先天性の骨・軟骨疾患③	大理石病・マルファン症候群・多発性神経線維腫症・くる病・巨人症の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	
15	骨端症②	テストの解説及び セーバー病・キーンバック病・ケーラー病の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得	

科目名 【英】	解剖生理学 2 Anatomy and Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7
担当教員	池 宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事。				
学習内容	医療に最も必要不可欠な解剖学・生理学を学ぶ。						
到達目標	解剖・生理学の国家試験過去問を解けるレベルにする。						
準備学習 時間外学習	解剖学 生理学						
使用教材	医歯薬出版 解剖学改定第2版 生理学改定第3版						
留意点 備 考							
成績評価	筆記試験のみで１００％評価						
授業計画 【テーマ・内容・目標】							
1		内臓系 泌尿器 1	腎臓の構造、働きについて説明できる。				
2		内臓系 泌尿器 2	尿管・膀胱・尿道の働き、構造について説明できる。				
3		内臓系 生殖器 1	精巣と精巣上体・精管・精嚢の構造、働きについて説明できる。				
4		内臓系 生殖器 2	前立腺・尿道球腺・陰茎・陰嚢の働き、構造について説明できる。				
5		内臓系 生殖器 3	卵巣・卵管・子宮の働き、構造について説明できる。				
6		内臓系 生殖器 4	膣・外陰部・会陰・胎盤の構造と働きについて説明できる。				
7		感覚器系 1	皮膚・皮膚に付属する角質器の構造と働きについて説明できる。				
8		感覚器系 2	眼球・光受容器・視覚路の構造と働きについて説明できる。				
9		感覚器系 3	眼球付属器（眼瞼・涙器・眼筋）の構造と働きについて説明できる。				
10		感覚器系 4	外耳・中耳・内耳の構造と働きについて説明できる。				
11		感覚器系 5	平衡感覚路・聴覚路・味覚器の構造と働きについて説明できる。				
12		感覚器系 6	嗅覚器（嗅上皮・嗅球・嗅覚中枢）の構造と働きについて説明できる。				
13		運動系・骨格系 1	骨格系総論。関節の分類を復習する				
14		運動系・骨格系 2	咀嚼筋・上肢の筋・下肢の筋を復習する				
15		総復習	後期の振り返り、国家試験解説。				

科目名 【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。 2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための、専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2		障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3		障害と生活機能 ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4		リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5		評価学 1	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6		障害学と治療学 1	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7		障害学と治療学 2	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8		障害学と治療学 3	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9		障害学と治療学 4	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害とその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10		高齢者 1	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11		高齢者 2	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12		脳血管障害 1	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13		脳血管障害 2	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14		パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる
15		試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる

科目名 【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	呼吸器疾患1	呼吸器疾患各論風邪症候群より肺結核まで理解する	
2	呼吸器疾患2	呼吸器疾患各論気管支喘息より気胸まで理解する	
3	診察各論 3	様々な検査方法を習得し、実施することができる。	
4	診察各論 4	代表的な兆候について説明できる。	
5	主要な疾患 1	呼吸器疾患について説明できる。	
6	主要な疾患 2	循環器疾患について説明できる。	
7	主要な疾患 3	消化器疾患について説明できる。	
8	主要な疾患 4	代謝疾患について説明できる。	
9	主要な疾患 5	内分泌疾患について説明できる。	
10	主要な疾患 6	血液造血疾患について説明できる。	
11	主要な疾患 7	腎尿路疾患について説明できる。	
12	主要な疾患 8	神経疾患について説明できる。	
13	主要な疾患 9	感染症について説明できる。	
14	主要な疾患 10	リウマチ・膠原病・アレルギー疾患や環境要因による疾患について説明できる。	
15	試験解説	後期試験解説	

科目名	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	医療の基本を学ぶ。まず、外科学総論として外傷学や手術の基本を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
到達目標	医学における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	損傷	創と傷について説明できる。バイタルサインが列挙できる。	
2	熱傷・感染症	熱傷深度について説明できる。破傷風など外科感染症を説明できる。	
3	腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。ボールマン分類を図示できる。	
4	ショック・輸液	ショックの定義を説明できる。酸塩基平衡を表示できる。	
5	消毒滅菌・手術	消毒液と滅菌法を説明できる。手術法を列挙できる。	
6	麻酔・免疫・出血	局所麻酔について説明できる。内外出血の原因疾患を列挙できる。	
7	心肺蘇生	救急医療のABCとAEDを説明できる。	
8	総論総まとめ	中間テストを行ない、理解していない項目を学習する。	
9	脳神経外科疾患	頭部外傷の病型分類を表示できる。頭蓋内出血の各疾患を説明できる。	
10	甲状腺頸部胸壁呼吸器疾患	甲状腺機能亢進症について説明できる。肺がん、肋骨骨折を説明できる。	
11	心臓脈管疾患	虚血性心疾患を説明できる。末梢の動脈静脈疾患を説明できる。	
12	乳腺疾患・腹部外科疾患	乳がんについて説明できる。腹部外科総論を説明できる。	
13	腹部外科疾患	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。	
14	確認テスト	個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。	
15	各論総まとめ	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。	

科目名 【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候に重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学 柔道整復術のに関連の深い整形外科学の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修 「医療の中の柔道整復」 有沢 修 著
留意点 備 考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名 【英】	柔道 3 Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身をとって外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		受身	横・前回り受身を行うことができる。
2		約束乱取 1	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3		約束乱取 2	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4		約束乱取 3	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5		形（手技） 1	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6		形（手技） 2	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7		形（手技） 3	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8		形（手技） 4	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9		形（手技） 5	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10		形（手技） 6	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11		形（手技） 7	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12		形（手技） 8	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13		形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名 【英】	外傷予防理論実習 1 Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	田中 精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導をおこなう。
------	-------	-------	---

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問にきてください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験60% + 実技テスト40%で評価。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	(座) 柔整師と介護保険 (演) コグニサイズ I	(座学) 介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。 (演習) 認知症予防体操の体験と理解。	
2	(座) 発達と老化の理解 I (演) 嘔吐物の対処方法	(座学) サルコペニアとフレイルの違い。 (演習) 嘔吐物対処の理解。	
3	(座) 発達と老化の理解 II (演) 心肺蘇生	(座学) 健康寿命の理解 (演習) 心肺蘇生法への関心	
4	(座) 介護保険制度 (演) 二人組 認定調査	(座学) 介護保険制度の理解 (演習) 認定調査内容の理解と調査体験。	
5	(座) 介護区分とサービス (演) 筋肉作用	(座学) 各種介護サービスの理解 (演習) 高齢者の機能訓練に対する考え方と指導方法習得	
6	(座) 介護の過程 I (演) 転倒予防と歩行	(座学) 介護支援のための情報分析の仕方の理解。 (演習) 高齢者への歩行指導方法習得	
7	(演) 介護の過程 II 居宅介護計画(原案)作成	(演習) 介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。	
8	(演) 介護の過程 III 介護計画のグループ作成	(演習) 意見交換を交えたグループ(班)としての居宅介護計画の作成能力習得とその体験。	
9	(演) 介護の過程 IV 担当者会議とグループ検討	(演習) 担当役設定の上での疑似体験による介護支援者とその家族に対する支援計画の説明力と対応力の習得。	
10	(座) 機能訓練指導 (演) 機能訓練計画作成	(座学) 機能訓練指導方法の理解。 (演習) 個別機能訓練計画作成力	
11	(座) 認知症の理解 (演) 身体能力測定と評価	(座学) 認知症患者の理解 (演習) 機能訓練身体能力測定方法と評価方法の習得	
12	(演) ロコモティブシンド ロームとテストと評価	(演習) ロコモテスト方法と評価方法の習得	
13	(座) 高齢者介護と I C F (演) 機能訓練試験対象	(演習) 機能訓練の運動と要点の習得。(実技試験合格ラインまで)	
14	前半 50分 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の障害	前半 筆記試験 後半 (座学) 高齢者の関節障害の理解	
15	前半 実技試験 後半 (座学) まとめ	前半 実技試験 後半 (座学) 介護保険制度における柔整師の役割の理解	

科目名 【英】	柔道整復実技 2 Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	金釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、顎関節脱臼の整復をマスターする
到達目標	2年生の進級実技合格

準備学習 時間外学習	柔道整復実技教科書 第2版も参照
使用教材	紙バンなど
留意点 備 考	実技なのでやすまないように

成績評価	実技試験評価 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。	
2	肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。	
3	肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。	
4	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。	
5	顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。	
6	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼が整復できるようになる。	
7	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の固定ができるようになる。	
8	肩関節前方脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法それぞれで整復できるようになる。	
9	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。	
10	顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。	
11	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼の整復・固定ができるようになる。	
12	総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。	
13	確認試験	全ての整復法、固定法ができるようになる。	
14	総復習	全ての整復法、固定法ができるようになる。	
15	試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。	

科目名 【英】	柔道整復実技3 Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	金 釘 直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	--------	-------	---

学習内容	小児に発生する肘疾患、代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	肘内障、鎖骨骨折、上腕骨外科頸外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折の整復の操作を実施できる。 臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	実技マニュアル
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、整復実技1試験にて評価する。
------	---------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肘内障 整復法	肘内障の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
2	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
3	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
4	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
5	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
6	コーレス骨折 牽引直圧法 整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
7	コーレス骨折 屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
8	肘内障 整復法	肘内障の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
9	鎖骨骨折 整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
10	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
11	上腕骨外科頸外転型骨折 整復法	上腕骨外科頸外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
12	上腕骨顆上伸展型骨折 整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
13	コーレス骨折 牽引直圧法/屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。	
14	総復習1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。	
15	総復習2	要点の整理。説明しながら整復法ができるようになる。	

科目名 【英】	柔道整復実技 4 Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折・脱臼を学ぶ。
到達目標	上腕骨遠位端部骨折から手指部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論 改訂第6版
留意点 備 考	

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肘関節後方脱臼・肘内障	肘関節後方脱臼・肘内障の発生機序、脱臼骨頭の位置、症状、特徴が説明できる。	
2	肘関節部の軟部組織損傷	側副靱帯損傷・PLRIについて説明できる。	
3	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘・上腕骨外側上顆炎・パンナー病・変形性肘関節症の分類、治療法、予防などが説明できる。	
4	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	上腕骨骨幹部骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。	
5	舟状骨骨折	舟状骨骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。	
6	舟状骨骨折 固定法	舟状骨骨折の固定法ができる。	
7	上腕骨近位部骨折	上腕骨近位部骨折の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。	
8	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。	
9	上腕骨骨幹部骨折 機能的装具固定法	サルミエントの機能的装具の作成ができる。	
10	復習	脱臼の整復法（肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）	
11	復習	脱臼の整復法（肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼）	
12	復習	進級実技試験にむけた。三角巾、肋骨固定、肩鎖関節脱臼テーピング固定	
13	復習	進級実技試験にむけた。三角巾、肋骨固定、肩鎖関節脱臼テーピング固定	
14	復習	後期定期試験に向けた総復習	
15	実技	試験解説、進級実技再試験にむけた注意事項と練習	
16			

科目名 【英】	柔道整復実技5 (i) Judo Therapy Practical Training 5 (i)			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	正木 大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	--

学習内容	手・指部の損傷を学ぶ
到達目標	手・指部の損傷の国家試験問題を解けるようにする

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	柔整理論 改訂第6版
留意点 備 考	特有の外観変形などで、疾患を連想できるようにしてください

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	手・指部の損傷 1	手・指の解剖と機能を理解する。	
2	手・指部の損傷 2	中手骨部の骨折の分類（中手骨頭部・中手骨頸部・中手骨骨幹部の症状）を理解する。	
3	手・指部の損傷 3	ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折を理解する。	
4	手・指部の損傷 4	CM関節の発生機序、症状を理解する。指骨の骨折（基節骨の分類）を理解する。	
5	手・指部の損傷 5	中節骨骨折（頸部・骨幹部・掌側板付着部裂利骨折）の概説、症状を理解する。	
6	手・指部の損傷 6	末節骨骨折の分類、転位を理解する。マレットフィンガーの分類、症状を理解する。	
7	手・指部の損傷 7	MP関節脱臼の分類、発生機序、症状を理解する。	
8	手・指部の損傷 8	PIP関節脱臼の分類、発生機序、症状、整復法を理解する。	
9	手・指部の損傷 9	DIP関節脱臼の発生機序、症状、固定法を理解する。	
10	手・指部の損傷10	第1MP関節側副靱帯損傷の概説、発生機序症状について理解する。	
11	手・指部の損傷11	ロッキングフィンガーの概説、症状、整復法を理解する。	
12	手・指部の損傷12	ばね指・デュブイトラン拘縮を理解する。	
13	手・指部の損傷13	ヘバーデン結節・ボタン穴・スワンネック変形を理解する。	
14	手・指部の損傷14	注意すべき疾患（RA、ひょうそ、グロムス腫瘍）を理解する。	
15	手・指部の損傷15	後期の総復習、テスト対策	
16			

科目名 【英】	柔道整復実技 5 ii Judo Therapy Practical Training 5 ii			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	正木 大吾、堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------------	-------	----------------------

学習内容	下腿部の損傷を学ぶ
到達目標	下腿部の疾患（骨折・脱臼・軟損）を理解し、国家試験問題を解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	柔整理論 改訂第6版
留意点 備 考	特有の外観変形などで、疾患を連想できるようにしてください

成績評価	100% 定期試験評価
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	下腿部の損傷 1	解剖と機能（下腿部の神経・筋、デルマトーム）の理解を理解する	
2	下腿部の損傷 2	下腿骨・骨幹部骨折（脛骨単独・腓腓両骨骨折）の発生機序を理解を理解する	
3	下腿部の損傷 3	下腿骨・骨幹部骨折（脛骨単独・腓腓両骨骨折）の転位・症状を理解を理解する	
4	下腿部の損傷 4	下腿骨・骨幹部骨折（脛骨単独・腓腓両骨骨折）の整復・後遺症を理解する	
5	下腿部の損傷 5	腓骨骨幹部単独骨折の症状・後遺症を理解する	
6	下腿部の損傷 6	下腿骨果上骨折の概説・発生機序を理解する	
7	下腿部の損傷 7	下腿骨果上骨折の症状・治療法を理解する	
8	下腿部の損傷 8	下腿骨疲労骨折の概説・分類・症状を理解する	
9	下腿部の損傷 9	アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎の概説・発生機序・治療を理解する	
10	下腿部の損傷10	アキレス腱断裂の概説・分類・症状・徒手検査を理解する	
11	下腿部の損傷11	下腿三頭筋の肉離れ概説・症状を理解する	
12	下腿部の損傷12	シンスプリントの発生機序・症状を理解する	
13	下腿部の損傷13	コンパートメントの発生機序症状を理解する	
14	下腿部の損傷14	下腿感染症・下腿腫瘍・下肢血行障害を理解する	
15	下腿部の損傷15	後期の総復習、テスト対策	
16			

科目名 【英】	柔道整復実技 6 Judo Therapy Practical Training 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	上田 益嗣	実務者経験	1995年7月～2019年3月 接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う
------	-------	-------	--

学習内容	下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解する事によって、1年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、3年次に必要な基礎的な知識を学習する。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%、小テスト2%、出席率1%で評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	下腿骨遠位端部骨折 1	小テスト・腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折（発生機序、転位、症状、整復法、固定法、後療法、後遺症）を説明することができる。	
2	下腿骨遠位端部骨折 2	前回の復習・小テスト・下腿骨疲労骨折（分類、発生機序、症状、治療法）・ラウゲ＝ハンセン分類（PAB損傷・SAD損傷）を説明することができる。	
3	足根骨部の骨折 1	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。	
4	足根骨部の骨折 2	前回の復習・小テスト・足関節のバイオメカニクス、距骨の解剖・距骨骨折の分類を説明することができる。	
5	足根骨部の骨折 3	前回の復習・小テスト・発生機転、症状、治療法、踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ペーラー角、を説明することができる。	
6	足根骨部の骨折 4	前回の復習・小テスト・舟状骨の解剖、発生機転、分類、症状、治療法、鑑別を説明することができる。	
7	足関節部の脱臼 1	前回の復習・小テスト・足の解剖、運動学ショパール関節脱臼（分類、特徴）を説明することができる。	
8	足関節部の脱臼 2	前回の復習・小テスト・リスフラン関節脱臼（分類、特徴）・中足指節関節脱臼（発生機序、症状、治療法）を説明することができる。	
9	足関節部の軟部組織損傷	前回の復習・小テスト・足部の靭帯解剖と診察法、足の靭帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチに足アーチについて説明することができる。足部の有痛性の各疾患を説明することができる。	
10	中足骨の骨折	前回の復習・小テスト・その他の足根骨解剖、分類、治療法、足の解剖、足アーチについて、発生機序による分類、症状を説明することができる。	
11	中足骨・趾骨骨折の骨折	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法を説明することができる。	
12	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 1	前回の復習・小テスト・足部の靭帯解剖と診察法、足の靭帯損傷発生機序、症状、治療法・足アーチについて説明できる。	
13	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 2	前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性三角骨、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病について説明できる。	
14	足根骨の脱臼と軟部組織損傷 3	前回の復習・小テスト・外反母趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病について説明できる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	臨床実習 3 Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日		時 限	

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習	1. 施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2. 施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3. 施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4. 医学的な清潔の意味が説明できること。 5. 施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6. 守秘義務を説明できること。
時間外学習	
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	出席率 及び 臨床実習評価表にて評価する。
------	-----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】					
1		基礎実習	1) 柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2) 医療面接の実施 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療器械の効果、禁忌の理解 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1) 環境準備 2) 受付業務 3) 患者さんの誘導を実施		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9		患者さんに対する対応	1) 患者に対して適切な対応ができる。 2) 患者の抱える問題点に共感できる。 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。		
10					
11					
12					
13		施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載 2) 症例検討の実施		
14					
15					
16					
17		保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施		
18					
19					
20					
21		実習期間	時間数	回数	総時間
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間
23					8月中の1週間

科目名 【英】	柔道整復応用講座 2 Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	山本 貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。 2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。
------	-------	-------	--

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備 考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動器障害 1	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる	
2	運動器障害 2	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
3	運動器障害 3	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
4	運動器障害 4	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる	
5	内部障害 1	呼吸機能障害・COPD・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる	
6	内部障害 2	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる	
7	スポーツ・障害者 スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる	
8	試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 3 Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人 淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定 手術助手 手術後のリハビリテーション担当 1993年9月～2013年4月
------	-------	-------	--

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を100%とする。
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	呼吸器疾患	呼吸器総論を復習し各疾患への理解を深める	
2	循環器疾患	循環器総論と各論のつながりを理解する	
3	消化器疾患	消化器の総論を復習し各疾患への理解を深める	
4	代謝疾患	代謝の総論を復習し各疾患への理解を深める	
5	内分泌疾患1	内分泌の総論を復習し各疾患への理解を深める	
6	内分泌疾患2	内分泌総論と各論のつながりを理解する	
7	血液・造血器疾患	血液・造血器総論と各論のつながりを理解する	
8	腎・尿路疾患1	腎・尿路の総論を復習し各疾患への理解を深める	
9	腎・尿路疾患2	腎・尿路と各論のつながりを理解する	
10	神経疾患1	神経の総論を復習し各疾患への理解を深める	
11	神経疾患2	神経総論と各論のつながりを理解する	
12	感染症	感染症総論を復習し各疾患への理解を深める	
13	リウマチ・膠原病・アレルギー	リウマチ・膠原病・アレルギー総論を復習し各疾患への理解を深める	
14	環境要因による疾患	環境要因による疾患を解剖生理を通じ理解する	
15	試験解説	後期試験解説	
16			

科目名 【英】	柔道整復応用講座 6 Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	6

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論 改訂第4版 南江堂
留意点 備 考	50分授業として実施する。

成績評価	期末試験で100%評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	外科学総論 1	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる	
2	外科学総論 2	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる	
3	外科学総論 3	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる	
4	外科学総論 4	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる	
5	外科学総論 5	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる	
6	外科学総論 6	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる	
7	外科学総論 7	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる	
8	外科学各論 1	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる	
9	外科学各論 2	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる	
10	外科学各論 3	心臓・脈管疾患 ASO, TAOの相違点を説明できる	
11	外科学各論 4	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる	
12	外科学各論 5	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる	
13	外科学各論 6	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる	
14	外科学各論 7	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる	
15	学年末まとめ	試験実習 1 模擬試験で及第点がとることができる	
16			

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	法の体系	法の体系について説明することができる。	
2	患者の権利	患者の権利について説明することができる。	
3	医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。	
4	柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。	
5	柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。	
6	柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。	
7	柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。	
8	合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。	
9	業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。	
10	施術所	施術所について説明することができる。	
11	広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。	
12	医療法	医療法について説明することができる。	
13	指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。	
14	社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	柔道 4 Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（足技）を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 形（足技）が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1.2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	形（腰技） 1	礼法、受身、浮腰を行うことができる。	
2	形（腰技） 2	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。	
3	形（腰技） 3	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。	
4	形（腰技） 4	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。	
5	形（腰技） 5	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。	
6	形（腰技） 6	腰技を左投、右投を行うことができる。	
7	形（足技） 1	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。	
8	形（足技） 2	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。	
9	形（足技） 3	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。	
10	形（足技） 4	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。	
11	形（足技） 5	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。	
12	形（足技） 6	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。	
13	形（足技） 7	足技を左投、右投を行うことができる。	
14	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。	
15	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。	
16			

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	林 宏明	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつかせ引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。	
2	柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
3	柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
4	柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。	
5	柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。	
6	柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。	
7	柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。	
8	柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。	
9	柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。	
10	柔整総論 10	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。	
11	柔整総論 11	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。	
12	柔整実技総論 1	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。	
13	柔整実技総論 2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。	
14	柔整実技総論 3	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患の導き出すことができる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床に診やすい軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学理論編第6版、柔道整復学実技編第2版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	包帯学	包帯学について理解し、説明できるようになる。	
2	上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷、インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。	
3	上肢疾患	末梢神経障害（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。	
4	上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。	
5	下肢疾患	膝関節部軟損（ACL・PCL、MM・LM）について理解し、説明できるようになる。	
6	下肢疾患	大腿部軟損（大腿四頭筋損傷、ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷）について理解し、説明できるようになる。	
7	下肢疾患	股関節脱臼について理解し、説明できるようになる。	
8	上肢疾患	橈骨手根関節脱臼、手根骨脱臼について理解し、説明できるようになる。	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	外傷予防理論実習 2 Injury Prevention Conditioning Practices 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100点満点
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動生理学 1	オリエンテーション 運動生理学について基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する	
2	運動生理学 2	レジスタンストレーニング 持久カトレーニングについて 筋力トレーニングの基礎知識を理解する	
3	運動生理学 3	エネルギー代謝 ATP—CP系 解糖系 TCA回路 運動時のエネルギー代謝について理解する	
4	運動生理学 4	筋繊維タイプ アイソメトリックコントラクション アイソトニックコントラクション 筋繊維の種類や筋収縮の様式を理解する	
5	運動生理学 5	呼吸中枢 最大換気量 最大酸素摂取量 AT LT 酸素借 運動時の呼吸について理解する	
6	運動生理学 6	循環 競技者の血圧 運動時の循環系についての理解を深める	
7	運動生理学 7	運動とホルモン 性ホルモン 運動時のホルモン分泌について理解する	
8	運動生理学 8	有酸素作業能力 間欠的作業能力 競技者の運動生理学的特徴について理解する	
9	外傷予防概論 1	外傷の発生要因 内的要因 外的要因について理解を深める	
10	外傷予防概論 2	外傷の予防対策 外傷予防の基礎知識を理解する	
11	外傷予防実技 1	タイトネステスト 関節弛緩性テスト 実際の検査法を理解し実践する	
12	外傷予防実技 1	アイシング ストレッチング 実際の方法を理解し実践する	
13	外傷予防実技 1	スポーツマッサージ スポーツテーピング 実際の方法を理解し実践する	
14	外傷予防実技 1	体幹強化トレーニング 下肢安定性向上トレーニング 肩甲帯トレーニングなど 種々のトレーニングについて方法を学び実践する	
15	総復習	理論実技の総復習 理論実技ともに復習し理解を深める	
16			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	西尾 仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、臨床に従事。
------	-------	-------	--------------------------

学習内容	肋骨骨折、ボクサー骨折、PIP関節脱臼、下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について理論、臨床知識、固定法を学ぶ。
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得目指しながら患者の身になり固定の実技力を高め臨床応用を身に着ける事を目指す。

準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編、実技編の教科書で学習内容項目を予習する事が必要。
使用教材	固定法マニュアル
留意点 備 考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書を持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査100%にて評価する。
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肋骨骨折の固定	肋骨骨折の理論を復習し固定出来るようになる。	
2	肋骨骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。	
3	ボクサー骨折の固定	ボクサー骨折の理論を復習し固定出来るようになる。	
4	ボクサー骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。	
5	PIP関節脱臼の固定	PIP関節脱臼の理論を復習し固定出来るようになる。	
6	PIP関節脱臼の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。	
7	下腿骨骨幹部骨折の固定	下腿骨骨幹部骨折の理論を復習し固定出来るようになる。	
8	下腿骨骨幹部骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。	
9	アキレス腱断裂の固定	アキレス腱断裂の理論を復習し固定出来るようになる。	
10	アキレス腱断裂の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。	
11	総復習	卒業実技試験のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。	
12	肋骨骨折の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。	
13	ボクサー骨折、PIP関節脱臼の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。	
14	下腿骨骨幹部骨折の固定	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。	
15	アキレス腱断裂の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。	
16	総復習	認定実技合格レベルを目指しながら助手を上手く指導し固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。	

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	5
担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1989年5月～2020年4月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。				
学習内容	柔整理論 柔整実技（鎖骨骨折 上腕骨骨折 コーレス骨折 足関節損傷）						
到達目標	基本的な整復法、固定法、後療法を理解する						
準備学習 時間外学習							
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編						
留意点 備 考							
成績評価	実技５０％ 筆記５０％						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨骨折	鎖骨骨折の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
2	鎖骨骨折	鎖骨骨折の診察および整復ができるようになる。	
3	鎖骨骨折	鎖骨骨折の固定ができるようになる。	
4	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復について理解し説明することができるようになる。	
5	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復ができるようになる。	
6	上腕骨近位端骨折	上腕骨外科頸外転型骨折の固定ができるようになる。	
7	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
8	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の固定ができるようになる。	
9	コーレス骨折	コーレス骨の診察および整復、固定について理解し説明することができるようになる。	
10	コーレス骨折	コーレス骨折の診察および整復ができるようになる。	
11	コーレス骨折	コーレス骨折の固定ができるようになる。	
12	足関節LCL損傷	足関節外側側副靱帯損傷について理解し説明することができるようになる。	
13	足関節LCL損傷	足関節外側側副靱帯損傷の固定ができるようになる。	
14	総復習	鎖骨骨折、上腕骨骨折、コーレス骨折、足関節外側側副靱帯損傷の診察および整復ができるようになる。	
15	試験解説	前期試験解説	
16			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	「実技マニュアル」、「柔道整復学実技編」教科書、および「柔道整復学理論編」教科書
留意点 備 考	

成績評価	実技100%ただし、新型コロナウイルスの関係で実技ができなくなった場合は筆記テスト100%
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	鎖骨脱臼 1	肩鎖関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
2	鎖骨脱臼 2	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
3	鎖骨脱臼 3	肩鎖関節脱臼の固定ができるようになる。	
4	肩関節脱臼 1	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
5	肩関節脱臼 2	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
6	肩関節脱臼 3	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。	
7	肩関節脱臼 4	肩関節脱臼の固定ができるようになる。	
8	肘関節脱臼 1	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。	
9	肘関節脱臼 2	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。	
10	肘関節脱臼 3	肘関節脱臼の固定法ができるようになる。	
11	膝関節側副靱帯損傷 1	膝関節側副靱帯損傷のテーピング固定ができるようになる。	
12	足関節側副靱帯損傷 1	足関節側副靱帯損傷のテーピング固定ができるようになる。	
13	総復習	肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼の診察及び整復、固定について実技練習する。	
14	膝関節側副靱帯損傷 2	膝関節側副靱帯・半月板損傷の診察および固定を理解し説明することができるようになる。	
15	足関節側副靱帯損傷 2	足関節側副靱帯損傷の診察および固定法を理解し説明することができるようになる。	
16			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80％一般60％の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する。	
2	消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する。	
3	消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施	
4	消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する。	
5	消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施	
6	内分泌解剖生理 1	出題数の多い内分泌について総論を理解する。	
7	内分泌解剖生理 2	下垂体のホルモンを理解する。	
8	内分泌解剖生理 3	頸部のホルモンを理解する。	
9	内分泌解剖生理 4	胸腹部のホルモンを理解する。	
10	内分泌解剖生理 5	生殖器ホルモンを理解する。内分泌解剖生理の小テスト	
11	内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。	
12	内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。	
13	内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。内分泌疾患小テスト	
14	試験対策	前期試験末の試験について再復習	
15	試験対策	前期末試験の解答解説	
16			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院で施術を担当。
------	------	-------	--------------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。	
2	生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。	
3	体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。	
4	体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。	
5	循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。	
6	循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。	
7	呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。	
8	呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。	
9	尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。	
10	尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。	
11	神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。	
12	神経系	神経の働きの基本について復習する。	
13	神経系	神経系の機能と役割について復習する。	
14	神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。	
15	筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。	
16			

科目名 【英】	臨床実習 4 Clinical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	6. 7

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	附属整骨院にて臨床実習を行う。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	患者の有無によりシミュレーションを行う。

成績評価	各実習時間内の評価
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	軟部組織損傷の徒手検査法	ガイダンス	
2	軟部組織損傷の徒手検査法	腱板損傷 ペインフルアークテスト、ドロップアームテスト、インピンジメントテスト、クレビタス	
3	軟部組織損傷の徒手検査法	上腕二頭筋長頭腱損傷 ヤーガソンテスト、スピードテスト、エルボーフレクションテスト	
4	軟部組織損傷の徒手検査法	十字靭帯損傷 引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト	
5	軟部組織損傷の徒手検査法	側副靭帯損傷 膝内反外反動揺テスト、グラビティテスト	
6	軟部組織損傷の徒手検査法	半月板損傷 マックマレーテスト、圧迫アブレイテスト、ワトソンジョーンズテスト	
7	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（大腿四頭筋） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
8	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（ハムストリングス） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
9	軟部組織損傷の徒手検査法	肉離れ（下腿三頭筋） 抵抗下疼痛誘発テスト、伸張時疼痛誘発テスト	
10	軟部組織損傷の徒手検査法	足関節外側側副靭帯損傷 内反内転動揺テスト、足関節引出テスト	
11	軟部組織損傷の徒手検査法	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習1	
12	軟部組織損傷の徒手検査法	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習2	
13	軟部組織損傷の徒手検査法	整骨院の物理療法の体験実技・腰部治療	
14	物理療法	牽引療法体験実習・頸部治療	
15	医療面接	医療面接の実際 1	
16	医療面接	医療面接の実際 2	

17	医療面接	医療面接の実際 3
18	手技療法	手技療法の実際（軽擦法・揉捏法）
19	手技療法	手技療法の実際（叩打法・圧迫法）
20	手技療法	治療体操（腰痛体操・コッドマン体操・バージャ体操）
21	シミュレーション	骨折患者の診察、治療シミュレーション
22	シミュレーション	脱臼患者の診察、治療シミュレーション
23	シミュレーション	捻挫患者の診察、治療シミュレーション

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から運動学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	運動学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	運動学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90%、小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	運動学概論	運動学の目的を理解し体の基本的構造を理解できる	
2	運動学概論	運動の表し方を把握し説明を加え自ら説明する事が出来る	
3	身体運動と力学	身体運動と力学(ベクトル、動体に働く力、てこの力 滑車 運動の法則)を理解し説明できる	
4	運動の法則	運動の法則 質量 重量 力の単位を理解し説明する事が出来る	
5	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーを理解し仕事 仕事率 力学的エネルギーを説明する事が出来る	
6	運動器の構造と機能	骨の構造 骨の構成要素 骨の発生と成長を理解し説明する事が出来る	
7	関節の構造	骨とビタミン ホルモン 関節の構造 関節の分類 骨格筋の構造を理解し説明する事が出来る	
8	骨格筋の構造	筋収縮 運動単位 神経筋接合部を理解し説明する事が出来る	
9	神経	神経細胞 神経線維 神経シナプス 自律神経を理解し説明する事が出来る	
10	神経	中枢神経 脊髄 脳 錐体路と錐体外路を理解し説明する事が出来る	
11	感覚	感覚と知性 感覚の種類 運動感覚 筋紡錘を理解し説明できる	
12	反射	反射と随意運動 反射弓 反射の種類 反射中枢 連合運動を共同運動について説明する事が出来る	
13	姿勢	姿勢重心立位姿勢安定性 抗重力筋 歩行周期 分析 歩行エネルギーについて説明する事が出来る	
14	運動発達	神経組織の成熟 乳幼児の運動発達 全身運動 歩行運動について説明できる	
15	試験解説	試験解説を行い、自分の弱点を見つけ出し克服する	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院で施術を担当。
------	------	-------	--------------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整外傷学実習5の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。	
2	生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。	
3	体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。	
4	体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。	
5	循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。	
6	循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。	
7	呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。	
8	呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。	
9	尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。	
10	尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。	
11	神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。	
12	神経系	神経の働きの基本について復習する。	
13	神経系	神経系の機能と役割について復習する。	
14	神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。	
15	筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical practice of judo therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	整形外科学を中心として柔道整復学も含み国家試験に必要な知識を学習する
到達目標	国家試験に向けた知識の習得

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	整形外科学 柔道整復学理論
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整医学演習 1	オリエンテーション(心構えや勉強への取り組みを理解する)	
2	柔整医学演習 2	整形外科学領域における骨端症 先天性骨系統疾患についての基礎知識を学ぶ	
3	柔整医学演習 3	整形外科学領域における先天性骨系統疾患 全身性神経筋疾患の基礎知識を学ぶ	
4	柔整医学演習 4	整形外科学領域における全身性神経筋疾患 骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ	
5	柔整医学演習 5	整形外科学領域における骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ	
6	柔整医学演習 6	整形外科学領域における絞扼性神経障害、末梢神経障害についての基礎知識を学ぶ	
7	柔整医学演習 7	整形外科学領域における非感染性関節疾患 関節リウマチ リウマチ類似疾患についての基礎知識を学ぶ	
8	柔整医学演習 8	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
9	柔整医学演習 9	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
10	柔整医学演習 10	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
11	柔整医学演習 11	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
12	柔整医学演習 12	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
13	柔整医学演習 13	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
14	柔整医学演習 14	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
15	柔整医学演習 15	総合演習 低正答問題の解説 整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	柔道整復師の問診、視診、打診、聴診など疾病を鑑別するにあたり、必要なスキルを学ぶ。
到達目標	国家試験の問題がスラスラ解けるようになる。

準備学習 時間外学習	講義に関する内容の教科書の読了
使用教材	一般臨床医学、国家試験過去問題
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		診察概論 視診	姿勢について説明が出来るようになる。
2		診察概論 視診	意識状態について説明が出来るようになる。
3		診察概論 視診	不随意運動について説明が出来るようになる。
4		診察概論 視診	異常運動について説明が出来るようになる。
5		診察概論 視診	皮膚の異常について説明が出来るようになる。
6		診察概論 視診	顔面部・頸部の異常を説明出来るようになる。
7		診察概論 視診	頸部の異常を説明出来るようになる。
8		診察概論 視診	胸腹部の異常を説明出来るようになる。
9		診察概論 視診	上肢の異常を説明出来るようになる。
10		診察概論 視診	下肢の異常を説明出来るようになる。
11		診察概論 打診	正常打診について説明出来るようになる。
12		診察概論 打診	異常打診について説明出来るようになる。
13		診察概論 聴診	正常聴診と異常聴診について説明出来るようになる。
14		診察概論 聴診	異常聴診について説明出来るようになる。
15		まとめ	前期を振り返り総まとめを行い、問題がスラスラ解けるようになる。
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学 解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る	
2	疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる	
3	細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる	
4	代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシウム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る	
5	アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる	
6	循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる	
7	循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る	
8	循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる	
9	進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル	
10	炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる	
11	免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る	
12	免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる	
13	腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る	
14	先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る	
15	病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る	
16			

科目名 【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6
担当教員	服部 博幸		実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。			
学習内容	日本の社会保障の成り立ちや現状、制度について学ぶ。また、他の医療職と連携していく中で、必要とされる柔道整復師像について考える。						
到達目標	臨床の場で、他の医療職と連携できるよう社会保障制度の理解と倫理感を持つことを目標とする。						
準備学習 時間外学習							
使用教材	教科書『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』（南江堂）、配布プリント						
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。						
成績評価	筆記試験結果（100％）を元に評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		社会保障論 1	【社会保障とは】 社会保障について、法的解釈および役割を理解する。
2		社会保障論 2	【社会保険制度とは 1】 今後の社会保障制度の基本となる地域包括ケアシステムについて理解する。
3		社会保障論 3	【社会保険制度とは 2】 公的年金制度について、理解する。
4		社会保障論 4	【社会保険制度とは 3】 介護保険制度、社会福祉・公的扶助・公衆衛生について理解する。
5		社会保障論 5	【医療保険制度とは 1】 医療保険の目的と意義について理解する。
6		社会保障論 6	【医療保険制度とは 2】 医療保険の3つの制度と保険者について理解する。
7		社会保障論 7	【医療保険制度とは 3】 保険診療の財政の状況と課題について理解する。
8		社会保障論 8	【医療保険制度とは 4】 保険診療報酬の請求の仕組みについて理解する。
9		社会保障論 9	【医療従事者の職業倫理 1】 職業とその倫理について理解する。
10		社会保障論 10	【医療従事者の職業倫理 2】 医療における倫理観と変化について理解する。
11		社会保障論 11	【医療従事者の職業倫理 3】 受動整復師の職業倫理と社会的責任について理解する。
12		社会保障論 12	【患者へのインフォームドコンセント】 医療行為の説明と同意について、説明内容と注意点について理解する。
13		社会保障論 13	【医療における情報と責任】 個人情報の内容と管理方法など注意点について理解する。
14		社会保障論 14	【ケーススタディ】 日々の臨床場でのトラブルに対する対応について、自ら検討する。
15		社会保障論 15	【試験解説】
16			

科目名 【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	5

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	脱臼範囲の国家試験範囲を習得する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整応用鑑別学	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。	
2	柔道整復術の適否1	柔道整復術非適応が疑われる症状と所見を理解し、説明することができるようになる。	
3	柔道整復術の適否2	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。	
4	柔道整復術の適否3	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
5	類似疾患1	化膿性炎症が疑われる患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
6	類似疾患2	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
7	類似疾患3	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
8	類似疾患4	病的骨折および脱臼が疑われる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
9	類似疾患5	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
10	神経、血管損傷1	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
11	神経、血管損傷2	内臓損傷が疑われる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。	
12	神経、血管損傷3	放射線の概要やX線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。	
13	画像診断1	画像のデジタル化、CT画像の特性を理解し、説明することができるようになる。	
14	画像診断2	MRIの見方を理解し、説明することができるようになる。	
15	復習	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学や病理学につながる解剖生理を学ぶことにより柔道整復師として臨床に応用できる知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学や外科学との関連性を把握する
使用教材	解剖学 生理学
留意点 備 考	パソコン マウス 必要

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	代謝の仕組み1	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる	
2	代謝の仕組み2	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる	
3	呼吸器の構造1	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る	
4	呼吸器の構造2	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る	
5	脳の構造1	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる	
6	脳の構造2	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる	
7	髄膜と脳脊髄液	髄膜と脳脊髄液を理解しそれについて説明できる	
8	終脳、大脳半球	終脳、大脳半球を理解しそれについて説明できる	
9	間脳	間脳について理解しそれについて説明できる	
10	脳幹	中脳、橋、延髄について理解しそれについて説明できる	
11	小脳	小脳の構造と機能について理解しそれについて説明できる	
12	脊髄1	脊髄の法則を理解しそれについて説明できる	
13	脊髄2	脊髄の内部構造を理解しそれについて説明できる	
14	中枢神経系	中枢神経系の結果脳構造を理解しそれについて説明できる	
15	伝導路	伝導路の反射について理解しそれについて説明できる	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 7 Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	6

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院で施術を担当。
------	------	-------	--------------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整医学演習14の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。	
2	筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。	
3	感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。	
4	感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。	
5	感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。	
6	感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。	
7	内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。	
8	生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。	
9	生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。	
10	骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。	
11	消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。	
12	消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。	
13	代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。	
14	成長・競技の生理的变化	成長・競技に伴う身体の生理的变化について理解を深める。	
15	総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	6

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系 1	終脳について説明することができる	
2	神経系 2	脳幹、大脳基底核について説明することができる	
3	神経系 3	神経伝導路について説明することができる	
4	神経系 4	末梢神経線維について説明することができる	
5	神経系 5	脳神経について説明できる	
6	筋系 1	筋線維について説明することができる	
7	筋系 2	シナプスについて説明することができる	
8	循環器 1	心電図について説明することができる	
9	循環器 2	心臓の弁構造と内圧の変化について説明することができる	
10	循環器 3	胎児循環について説明することができる	
11	呼吸器 1	気管系について説明することができる	
12	呼吸器 2	肺について説明することができる	
13	血液 1	血液の役割について説明することができる	
14	血液 2	造血・溶血について説明することができる	
15	総まとめ	全ての総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	6

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		発達と老化の理解 Ⅰ-①	サルコペニアとフレイルの違いについて理解し、説明することが出来るようになる。
2		発達と老化の理解 Ⅱ-①	老化・高齢者特有疾患について理解し、説明することが出来るようになる。
3		認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
4		介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
5		介護の過程	介護サービス提供に必要な手続き等について理解し、説明することが出来るようになる。
6		高齢者介護と I C F	高齢者介護における目標・ICFについて理解し、説明することが出来るようになる。
7		介護予防と生活機能の向上	介護予防の考え方について理解し、説明することが出来るようになる。
8		ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
9		高齢者自立支援の理解Ⅰ-①	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
10		高齢者自立支援の理解Ⅱ-①	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
11		機能訓練指導Ⅰ-①	機能訓練指導員の定義・機能訓練の流れ・機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。
12		機能訓練指導Ⅱ-①	機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
13		機能訓練指導Ⅲ-①	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
14		機能訓練指導Ⅳ-①	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	6

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習しておく。
使用教材	教科書『生理学』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1		発達と老化の理解 Ⅰ-②	サルコペニアとフレイルの違いについて理解し、説明することが出来るようになる。
2		発達と老化の理解 Ⅱ-②	老化・高齢者特有疾患について理解し、説明することが出来るようになる。
3		認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
4		介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
5		介護の過程	介護サービス提供に必要な手続き等について理解し、説明することが出来るようになる。
6		高齢者介護と I C F	高齢者介護における目標・ICFについて理解し、説明することが出来るようになる。
7		介護予防と生活機能の向上	介護予防の考え方について理解し、説明することが出来るようになる。
8		ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
9		高齢者自立支援の理解Ⅰ-②	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
10		高齢者自立支援の理解Ⅱ-②	日常生活支援において注意すべき点について理解し、説明することが出来るようになる。
11		機能訓練指導Ⅰ-②	機能訓練指導員の定義・機能訓練の流れ・機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。
12		機能訓練指導Ⅱ-②	機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
13		機能訓練指導Ⅲ-②	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
14		機能訓練指導Ⅳ-②	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	5

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う
------	-------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備 考	パソコン マウス 使用

成績評価	試験 90% 小テスト 10%を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る	
2	損傷	損傷の分類 損傷の治癒 交通事故外傷 特殊な損傷 熱傷を理解し説明する事が出来る	
3	損傷	救急処置 熱傷の合併症を理解 気道熱傷 その他の損傷を理解し 説明する事が出来る	
4	炎症と外科感染症	炎症と外科感染症 感染発症のメカニズム 静脈瘤 梅毒 真菌症 動物の噛み傷を理解し説明できる	
5	腫瘍	腫瘍 概念 発がん 分類良性 悪性 上皮性 非上皮性癌を理解し説明する事が出来る	
6	ショック	心臓性 血液分布異常性 閉塞性ショック血圧 対処法を理解し説明できる	
7	輸血と輸液	輸血の適用 一般輸血 高カロリー輸液について理解し説明できる	
8	消毒と滅菌	主な消毒薬 皮膚消毒 機械の消毒 エチレンガス滅菌について説明できる	
9	手術	手術の分類 各種手術法 皮膚切開 止血 結紮について理解し説明できる	
10	麻酔	概要 全身麻酔 局所麻酔 気管挿管 神経ブロック 緩和ケアについて理解説明できる	
11	移植と免疫	同系移植 同種移植 臓器の保存について理解し説明できる	
12	出血と止血	出血の分類 出血血管の分類 原因について理解し説明できる	
13	出血と止血	鼻出血 咯血 吐血 腹腔内出血器械的止血 物理的止血 化学的止血について理解し説明できる	
14	救急処置	新派蘇生法 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDNIについて理解し説明できる	
15	テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め 国家試験合格に向けて理解する	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 13 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師において必要なリハビリテーション医学の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	P C / 配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。	
2	リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。	
3	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。	
4	評価と診断 1	評価と診断【MMT・筋力増強法】 MMTについて説明できる。	
5	評価と診断 2	評価と診断【運動失調】 運動調節機構の概要について説明できる。	
6	評価と診断 3	評価と診断【ADL】 ADLと評価法について説明できる。	
7	治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。	
8	治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。	
9	リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。	
10	リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 急性期と回復期のリハビリテーションについて説明できる。	
11	リハビリの実際 3	各論【脊髄損傷】 損傷高位による機能予後を説明できる。	
12	リハビリの実際 4	各論【脳性麻痺】 脳性麻痺の3型を説明できる。	
13	国家試験対策 1	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
14	国家試験対策 2	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
15	まとめ	総復習 国家試験においての重要範囲について説明できる。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 1 4 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院で施術を担当。
------	------	-------	--------------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。	
2	筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。	
3	感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。	
4	感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。	
5	感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。	
6	感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。	
7	内分泌	内分泌系の機能と構造について理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。	
8	生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。	
9	生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。	
10	骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。	
11	消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。	
12	消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。	
13	代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。	
14	成長・競技の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。	
15	総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 15 Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	7

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	肝臓胆嚢膵臓	消化に関わる実質性臓器の働きについて理解する。	
2	肝臓の解剖生理	肝臓の詳細な構造、働きについて全身での役割について理解する。	
3	胆嚢膵臓	胆嚢膵臓の構造、働きを区別できるようにする。肝胆膵の解剖生理理解度を小テストで計る	
4	消化器疾患	消化器疾患を理解するため解剖生理を簡単に振り返り疾患の大枠を捉える。	
5	消化器疾患	口腔から小腸までの疾患について解剖生理を理解しつつ覚える。	
6	消化器疾患	小腸から肛門にかけての疾患および自己免疫疾患についても理解する。消化管疾患の小テスト	
7	消化器疾患	肝臓胆嚢膵臓の主な疾患について理解する。肝胆膵の小テストを実施する	
8	泌尿器解剖生理 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。	
9	泌尿器解剖生理 2	泌尿器全体像を把握し理解する。	
10	泌尿器解剖生理 3	膨満嚢から尿道まで男女別に区別し理解する。	
11	泌尿器疾患 1	腎疾患における特徴を知り理解する。泌尿器解剖生理の小テスト	
12	泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。	
13	泌尿器疾患 3	腎以降の泌尿器疾患を理解する。	
14	試験対策	後期試験末の試験について再復習	
15	試験対策	後期末試験の解答解説	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 16 Medical Practice of Judo Thrapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	5

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1989年5月～2020年4月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	認定実技と社会保障制度
到達目標	認定実技合格に向けて、および社会保障制度の基本的な理解する

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	認定実技に向けて	鎖骨骨折の整復、固定を体得し、実施することができるようになる。	
2	認定実技に向けて	上腕骨骨折骨幹部骨折の固定を体得し、実施することができるようになる。	
3	認定実技に向けて	コーレス骨折の整復、固定を体得し、実施することができるようになる。	
4	認定実技に向けて	足関節損傷の固定を体得し、実施することができるようになる。	
5	社会保障とは 1	社会保障の 3 つの機能について理解し、説明することができるようになる。	
6	社会保障とは 2	あるべき社会と今後の社会保障について理解し、説明することができるようになる。	
7	社会保障制度 1	公的年金、介護保険の意義と仕組みについて理解し、説明することができるようになる。	
8	社会保障制度 2	医療保険の目的と意義について理解し、説明することができるようになる。	
9	社会保障制度 1	保険診療と医療保険財政について理解し、説明することができるようになる。	
10	社会保障制度 2	診療報酬制度について理解し、説明することができるようになる。	
11	職業倫理 1	医療従事者の職業倫理について理解し、説明することができるようになる。	
12	職業倫理 2	柔整師に必要な基本的な倫理観について理解し、説明することができるようになる。	
13	職業倫理 3	柔整師の社会的責任と対応について理解し、説明することができるようになる。	
14	職業倫理 4	医療における情報と責任について理解し、説明することができるようになる。	
15	職業倫理 5	社会保障制度と職業倫理のまとめ	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 1 7 Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	7

担当教員	服部 博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100%）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復学演習 1	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。
2		柔道整復学演習 2	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。
3		柔道整復学演習 3	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
4		柔道整復学演習 4	【手・手指部の骨折・脱臼3】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
5		柔道整復学演習 5	上肢の神経損傷 正中・頭骨・尺骨神経麻痺について、理解を深める。
6		柔道整復学演習 6	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 1】 骨盤骨骨折について理解を深める。
7		柔道整復学演習 7	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 2】 股関節脱臼について理解を深める。
8		柔道整復学演習 8	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 3】 大腿骨骨折について理解を深める。
9		柔道整復学演習 9	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 4】 膝関節・膝蓋骨+脱臼、下腿骨骨折について理解を深める。
10		柔道整復学演習10	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 5】 下腿骨遠位端骨折について理解を深める。
11		柔道整復学演習11	【骨盤・下肢の骨折・脱臼 6】 足根骨骨折と脱臼について理解を深める。
12		柔道整復学演習12	【上肢の骨折・脱臼 1】 上腕骨骨幹部骨折・肘周辺の骨折について理解を深める。
13		柔道整復学演習13	【上肢の骨折・脱臼 2】 モンテギア・ガレアジ骨折、橈骨遠位端骨折について理解を深める。
14		柔道整復学演習14	【総合復習】 難度の高い傷病について、再度確認し、理解を深める。
15		柔道整復学演習15	【試験解説】
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 18 Medical Practice of Judo Therapy 18			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に關しての幅広い内容を学ぶ。
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【一般臨床医学 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備 考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる	
2	神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる	
3	神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる	
4	神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる	
5	神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる	
6	筋系疾患 1	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる	
7	筋系疾患 2	重傷筋無力症について説明することができる	
8	循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる	
9	循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる	
10	循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる	
11	呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる	
12	呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる	
13	血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる	
14	血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる	
15	総まとめ	全ての疾患の総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 19 Medical Practice of Judo Therapy 19			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	5

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	上肢や下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷部の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し疾病を鑑別することができる。 柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	ガイダンス・ 肩の軟部組織損傷	肩の鑑別疾患(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、五十肩)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
2	膝の軟部組織損傷	膝の鑑別疾患(内側半月板損傷、内側側副靱帯損傷、前十字靱帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
3	足の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(前距腓靱帯損傷、二分靱帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
4	まとめ	肩・膝・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
5	肘の軟部組織損傷	肘の鑑別疾患(野球肘・上腕骨外側上顆炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
6	手関節の 軟部組織損傷	手関節の鑑別疾患(三角線維軟骨複合体損傷、キーンベック病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
7	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(ドケルバン病、ロッキングフィンガー)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
8	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(スワンネック変形、ボタン穴変形)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
9	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
10	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(大腿骨頭壊死・股関節拘縮)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
11	下腿の 軟部組織損傷	下腿の鑑別疾患(コンパートメント症候群、アキレス腱断裂)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
12	足部の 軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(シンスプリント・有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
13	足部の 軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(第一キーラー病、フライバーグ病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
14	まとめ	股・下腿・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。
16		

科目名 【英】	柔整医学演習 20 Medical Practice of Judo Therapy 20			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	7

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で施術を担当する。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、解剖学
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	骨盤部の損傷	骨盤骨骨折について理解し説明することができる。	
2	股関節部の損傷 1	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。	
3	股関節部の損傷 2	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼 1 について理解し説明することができる。	
4	股関節部の損傷 3	股関節脱臼 2 について理解し説明することができる。	
5	大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。	
6	膝関節部の損傷 1	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。	
7	膝関節部の損傷 2	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。	
8	膝関節部の損傷 3	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。	
9	膝関節部の損傷 4	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。	
10	下腿部の損傷 1	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。	
11	下腿部の損傷 2	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。	
12	足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。	
13	足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。	
14	肩関節部の損傷 1	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。	
15	肩関節部の損傷 2	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。	
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 2 1 Medical Practice of Judo Therapy 21			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	5

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』『柔道整復学 実技編』 配布プリント
留意点 備 考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	定型的鎖骨骨折①	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2	定型的鎖骨骨折②	定型的鎖骨骨折について説明することができる
3	上腕骨外科頸外転型骨折①	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
4	上腕骨外科頸外転型骨折②	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
5	上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折について説明することができる
6	コーレス骨折①	コーレス骨折について説明することができる
7	コーレス骨折②	コーレス骨折について説明することができる
8	第5中手骨頸部骨折①	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
9	第5中手骨頸部骨折②	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
10	肋骨骨折①	肋骨骨折について説明することができる
11	肋骨骨折②	肋骨骨折について説明することができる
12	肩鎖関節上方脱臼①	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
13	肩鎖関節上方脱臼②	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
14	肩関節烏口下脱臼①	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
15	肩関節烏口下脱臼②	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
16		

科目名 【英】	柔整医学演習 2 2 Medical Practice of Judo Therapy 22			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	国家試験対策に必要な柔道整復学理論を学ぶ
到達目標	教授範囲の80%は正解出来るようにする。

準備学習 時間外学習	軟部組織について解剖学を事前に理解したうえで講義に臨めるように
使用教材	柔道整復学理論編、実技編（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画【テーマ・内容・目標】			
1	体幹 1	肋間筋損傷 肋間筋損傷について機序と症状を説明できるようになる	
2	体幹 2	長胸神経麻痺 長胸神経麻痺について機序と症状を説明できるようになる	
3	頸部 1	頸椎症 頸椎症について機序と症状、検査法を説明できるようになる	
4	頸部 2	胸郭出口症候群 胸郭出口症候群について機序と症状、検査法を説明できるようになる	
5	上肢 1	五十肩 五十肩の機序から経過、治療法まで説明できるようになる	
6	上肢 2	SLAP損傷、リトルリーガー肩 各症例の機序から症状、治療まで説明できるようになる	
7	上肢 3	野球肘、テニス肘 各症例の機序から症状、治療まで説明できるようになる	
8	上肢 4	上肢の末梢神経損傷 各症例の症状、違いを説明できるようになる	
9	上肢 5	手指の軟部組織損傷 デュブイトラン拘縮、変形性関節症の機序、鑑別について説明できるようになる	
10	下肢 1	股関節拘縮、単純性股関節炎 拘縮の症状と鑑別について説明できるようになる	
11	下肢 2	膝の軟部組織損傷 半月板、側副靱帯、十字靱帯損傷の違いを説明できるようになる	
12	下肢 3	膝の軟部組織損傷 2 膝蓋骨軟化症、オスグッドシュラッター病について説明できるようになる	
13	下肢 4	足の軟部組織損傷 1 内反捻挫と外反捻挫の違いを説明できるようになる	
14	下肢 5	足の軟部組織損傷 2 足根管症候群、モートン病の違いを説明できるようになる	
15	まとめ	全ての疾患を説明および理解がつながるようにする。	
16			